

つくりにしつけミを嫌ふつくりもあり、

作に念入候へハ、下田も上田の作毛になり候事

一 所にはよるべく候へども、麦田になるべき

所をハ、少しなりとも見立申へく候、以来は

れんれん麦田に成候へバ、百姓のため大き

なる徳分にて、一郷麦田を仕立候へハ、隣郷も

その心付これあるものに候事

一 春秋灸をいたし、煩候ハぬやうに常々こゝろ

かけへし、何ほど作に精を入度とそんじ候

ても、煩候へバ其年の作をはづし、身上潰し

申ものに候間、其心得專一なり、女房・子供も

同然の事

一 多葉粉吞 申間敷候、是ハ食にもならず、結句

以来煩に成ものに候、其上隙もかけ代物も